

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

・設置の趣旨および目的等について

本栄養科学部は、その前身である短期大学部食物栄養科が50年間培ってきた地域での役割と伝統をもとに、「より高度で専門的知識・技能を有する人材の育成と、地域での健康と栄養に関する学術の中心としての役割をそれまで以上に果たし、地域への貢献を期する」という設置の趣旨・目的をもって、平成22年4月に開設された。

その設置の趣旨・目標に基づき、1) 入学者の確保と学生支援、2) 教育課程の履行状況、3) 就職支援活動、4) 地域貢献、の達成状況について総括評価し所見を述べる。

1) 入学者の確保と学生支援

設置の趣旨・目的の達成には、まずは入学者の確保が最重要課題である。少子化のなか、本栄養科学部は開設以来、順調に入学者を確保している。

本学は、学生個々の孤立性の防止と協調性の育成のため、「対話のある大学」を日常教育の行動原理として掲げている。それに基づき、栄養科学部では約40人のクラス担任制をとり、さらに学生5～6名を単位として、それに教員1名を加えたコミュニケーションサークルを編成、学生間、教員と学生間の円滑な意思疎通をはかっている。また、入学初期の新生特別研修は、入学時の不安と緊張の解消、学生同士・学生教員間の触れ合いなど、大学教育への導入の場となっている。

2) 教育課程の履行状況

人材養成は、学校基本法第83条の大学の目的に基づき、次の項目を具体的な目標として行っている。

ア) 基礎学力と人間理解力の向上、

栄養学を学ぶにあたり基礎学力として必須である生物、化学に関する科目群を1年生に設置している。それらの科目の履修者は選択科目でも90%を超え、学生たちは、生物・化学の基礎的知識の修得により、栄養素の体内での働きを、組織・細胞レベルでの化学反応として捉え、論理的に理解できるようになっている。

また、1年生の前期に「栄養学概説」(必修)を配置し、学生の栄養学に対する動機づけが功を奏している。さらに、高等学校までに科学的な実験をあまり行っていなかった学生を対象に「基礎科学実験」(選択)を開講している。この実験の受講生は70～90%に及んでおり、その後の専門科目の実験で、基本的な実験への心構え、器具の操作法、レポートの書き方などを細かくガイダンスする必要がなく、専門的なテーマから実験が開始できている。

このように、専門科目への導入科目としての専門基礎科目の設定は、専門科目の理解力・学問へのモチベーションの向上など教育効果に大きく寄与している。

また、文学部の協力を得て行う教養科目は、人間栄養学を修得する上で、重要な科目であると理解し学生たちは履修している。

イ) 倫理観・道徳性の向上、

本大学の教育理念・目標は、キリスト教精神に基づく「生命と真理」、「愛と奉仕」の精神をもつ倫理観・道徳性の高い人材を育成することにある。

本学部は1年生のキリスト教学Ⅰを必修科目としており、そこから“命”を尊び、“真理”に真摯に立ち向かう姿勢、万人に対する豊かな“愛と奉仕”の精神の涵養を学びとるように教育している。また、週に一度の礼拝には1年生の多くが出席しており、自分の心を見直す良い機会となっている。

栄養学における“人体の構造及び疾病の成り立ち”の学びの一環として、岩手医科大学の協力のもと解剖体験見学実習を課している。この実習に先立ち、生命への畏敬と人体提供者への尊崇の念について、特別に学ぶ機会を設けている。この実習を通し、学生たちはフィジカルな面のみならずメンタルな意味においても大きな学習効果を上げている。

ウ) 高い専門性の修得

栄養科学部で学んでいる学生のほとんどは管理栄養士の資格取得を希望している。基幹科目、展開科目、実践科目と体系的・複合的に配置した専門科目は計画通り遂行されている。実践科目には学外での実習として、校外実習、臨地実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを配置している。「校外実習（給食の運営）」は平成24年度（3年次）に実施し、予定された全学生が実習の履修承認要件を充たし実習に臨むことができた。このことから、学習効果は着実に上がっていると言える。また、実習事後においては、体得した専門知識や技能を、低学年も参加した学内報告会で、口頭やポスターセッションを通して発表し、より確かな能力として高めている。

現在の管理栄養士に要求される資質である人間栄養学、すなわち、テーラーメイドの栄養管理や栄養指導ができる能力をより確かなものとして育成するために、4年生後期に配置した「総合演習Ⅱ」で、総合的、実践的学習を行い、集大成とすることとしている。

エ) 科学的思考力・応用力・創造能力の育成

栄養科学部の教育における共通認識の一つは、科学的根拠に基づいた思考力、そしてその思考力を応用・創造性へと発展させることにある。教科書的な事象に対しても、その科学的根拠を示し、その先に何があり、何につながっていくのか、と教育を展開している。その集大成として卒業研究がある。各専門分野に配属された、卒業研究生は、その学問分野で、何が解っていて、何が未知なのか、そして、その未知部分を研究する意義はどこにあるのかを現在学んでいる。

教員間でFDの一貫として行っているジャーナルクラブにおいて最新の研究成果の情報を得ているが、それを折に触れ、授業・卒業研究に反映して、世界のトップレベルの研究者の思考力・創造力を学生と共有することに努めている。

3) 就職支援活動について

就職支援活動は、本学就職センターが中心となって2年次から4年次まで体系的に行っている。2年次は、「就職基礎講座」（前期）、「就職準備講座」（後期）を、3年次は「就職実地講座」（前期）、「就職直前講座」（後期）を開講し、コミュニケーション

ョン能力アップからエントリーシートの書き方まで多岐にわたる。また、学部では学生の進路調査を実施し、希望する職種や就職先地域を把握し、就職活動のための情報の提供や日程管理、学部教員による企業訪問など支援活動を行っている。

なお、管理栄養士になるためには、国家試験に合格することが必要で、この支援も行っている。

4) 地域貢献について

東日本大震災の復興支援活動として、栄養科学部は、岩手県栄養士会と連携し、被災地に管理栄養士を派遣して、被災者の健康状態、栄養状態の観察、食事等の栄養指導、栄養相談やバランスのとれた食事の提供にかかる支援を行った。

また、県内の保健所、市町村等と連携し、被災地の避難所における食事提供状況、栄養状況を把握するとともに適正な食事内容や必要な栄養量の確保について、調査支援を行っている。

岩手県滝沢村との協力による「たきざわGP」は3年目となり、平成22年度に採択された事業が完結し、「滝沢村民の健康増進に関する調査報告書」の発刊とともに村内での報告会の実施により、村民の健康増進の意識啓発に貢献した。引き続き、「滝沢村高齢者の肥満改善を目的とした保健指導プログラムの構築」事業が採択され事業を展開している。

また、本学が毎年開催している公開講座では「震災から学ぶ食の大切さ」など震災に関連した講演も行っている。

以上